

皆様からの義援金を、どんな形で被災地の皆様に送ろうかと
思案していました。そんな時、
仙台にいる知人（2008年S級
ライセンス受講同期生）I氏から、
一通のメールが届きました。

S級2008同期のみんなへ、

『気仙沼、石巻地区は今回の震災で
大きな被害を被っています。ところが、
被災した子どもたちのサッカー
用品が災害で流され無いのが現状
です。シューズ、トレーニングウェア、
シャツ、パンツ等、皆様のまわり
で譲っても良いというものがあ
りましたら送付していただければ
と思います。災害から子どもたちの
笑顔を一日でも早く、一人でも多く
取り戻してあげたいと思います。
ご協力お願い致します。』

それで、考えたのがfのジャージ
類などを送ったらどうかと
いうことです。あわせて義援金
でボールを購入し、共に送ろう
と決めました。

支援の仕方は、様々あると思
いますが、フォルトウナサッカー
クラブとしての形で支援をさ
せていただきました。義援金に
ご協力くださいました皆様
のご理解をお願いするとともに、
感謝の気持ちでいっぱいです。
ありがとうございました。

つきましては、4月20日（水）
に仙台に行き支援物資を届けて
まいりました。その報告をいた
します。

心をひとつに！

東日本大震災 義援金

おかげさまで

25,188 円

という皆様の心が集まりました。

ありがとうございました。



4月19日（火）支援物資の準備をしました。



クラブジャージ、短パン、ピステ
ウインドブレーカー、
ハーフパンツ …etc



クラブオリジナルTシャツ
クラブオリジナルトレーナー



4号ボール



以上の物を、車に積み込み、
19日夜中に一路仙台へ向かいま
した。

4月20日（水） 20日朝5時半ごろ仙台市につき、待ち合わせ場所の宮城教育大学の構内へ同期のI氏と会い、気仙沼市本吉地区へ、車で約2時間、いざ出発。

本吉地区の近くまで来たときに、片側を通行止めにし、迷彩色の大型ブルドーザーが動いていた。何だろう?? 道路の復旧かな?・・・とI氏が言った。

まだ、ここは河口から6キロくらいのところ・・・まさかこんな所まで、津波が来るはずがない!と思った一言だったらしいが、それもすぐ間違いだと思い知らされた。

津谷川の支流は、津波によって汚れ、自衛隊員が、がれきの撤去をしていた。

えっ、こんなところまで!?!とI氏は絶句・・・ポ一然としていた。

100mも進むと、それまで当り前のように綺麗に立っていた家が、戸が無くなり、ガラスが割れそして家が傾き、今にも倒れそうな無残な姿だった・・・と10mも進むと、そんな家すら何も……何もかもが無くなっていた。

気仙沼市本吉総合体育館に着き、本吉町の体育協会の方が出迎えてくれ支援物資をお渡しいたしました。

ボランティアの方々と市の職員の方々と一緒に子供たちの為のサッカー用具を2階の部屋に運びました。



写真左上は、体育館の入り口 台車で中に運び入れるところ。

写真右上は、2階の部屋に一時保管
(当日同行したU-15の森本選手)



今回の支援物資は、気仙沼市本吉町の津谷地区と大谷地区とにある 2 つのサッカースポーツ少年団の小学生たち、そして指導者の方々に届けられることになっています。

写真左は、今回の窓口になっている本吉町体育協会の畠山氏（右の方）、真ん中の方は、私の友人の I 氏。今回のメール送信者です。



左写真の中央、山と山の隙間に津谷川が流れる、まさにその間から、約 20m の高さの津波が襲ってきたそうだ。

手前の車が通っている橋もすっかり津波の中に埋もれたそうだが、幸い橋は残った。

ここからは海はまったく見えない・・・

まさかここまで津波が来るとは想定していなかったと畠山氏も言っていた。

ここ本吉地区は、まだライフラインが復旧しないため、本吉総合体育館の駐車場には、給水タンクによる水の配布と、自衛隊が用意した仮設の浴場がありました。この日も、地域の住民の方々が、着替えを持って中に入っ



て行く姿が見られました。

少しでもさっぱりして癒してほしいなと心から思いました。

それから車を本吉地区の海岸沿いの方へ走らせた。無事だった家のいっぱい建っている間を抜け、山側から海側へと行くと・・・海が視界いっぱい広がってきた。

I 氏が思わず、

“本当だったらここからは、家が邪魔して海なんか見えないんだけど・・・”と言った。

でも現実には、海への視界を邪魔するものは何もなかった。

そして、視界に入ってきたのがひっくり返った白い家だった（下の左写真）



上右の写真は、本吉町小金沢と言う地区の海岸、本当だったら右中央から左上に線路（気仙沼線）が引かれているのだが、線路は途中からなかった。

左中央上部分には駅舎があったそうだが、駅ごと津波にのまれて駅舎は何もなかった。

左の写真は、南三陸町の志津川地区の中心部です。鉄骨の骨組み以外は何も残っていません。すべてガレキでした。



下の写真は、仙台市若林区の荒浜地区の状況です。

水平線のように見えるのが、海岸沿いの松林、そこから3キロくらいのところに立って写真を撮っています。



何もありません・・・。

今回現地を見てきたことを、伝えるのは容易ではないことだと思っています。しかし、少しずつでも現地の状況をお伝えし、みなさんに理解していただき、温かい手を、気持ちを、支援という形として

一時的ではなく、継続していけたらなと考えています。今回、縁があつて支援をさせていただいたチームには、これからサッカーというアイテムで交流ができたらと考えています。是非、fのファミリーの皆様もご支援ご協力よろしく願いいたします。

以上、報告でした。 文責：皆川新一